

DX戦略

執行役
デジタル推進本部長
加藤 花子



中期経営計画(2023-2025)では、AIやデータ活用の浸透により、顧客向けサービスの高度化や業務生産性向上など、DXの成果が具体化し始めました。一方で、生産性向上で創出した時間を顧客価値向上につなげることや、個人の成果を組織全体の変革へ展開することには、なお課題があると認識しています。

当社の中長期的な成長には、「既存事業の収益力向上」と「将来の成長領域への投資」の両立が重要です。私はDXを、その両立を実現する経営戦略と位置づけています。業務効率化で創出した経営資源を顧客価値創出へ再投資し、その成果を次の成長投資へ循環させる。このサイクルを回し続けることで、DXを「経営資源を創出する仕組み」へ進化させたいと考えています。

その実現を支える経営基盤がデータとAIです。デジタル技術はあくまで手段であり、目的は顧客価値と企業価値の向上にあります。

新中期経営計画では、DX・AI投資を戦略的投資と位置づけ、データ・AI基盤整備やガバナンス強化を進めるとともに、業務プロセス改革と人材育成に取り組みます。AI活用による顧客価値創出と業務変革を加速すると同時に、これらを支える基盤・組織能力を強化することで、変革を企業文化として定着させ、企業価値を継続的に高めていきます。

DX戦略の基本方針

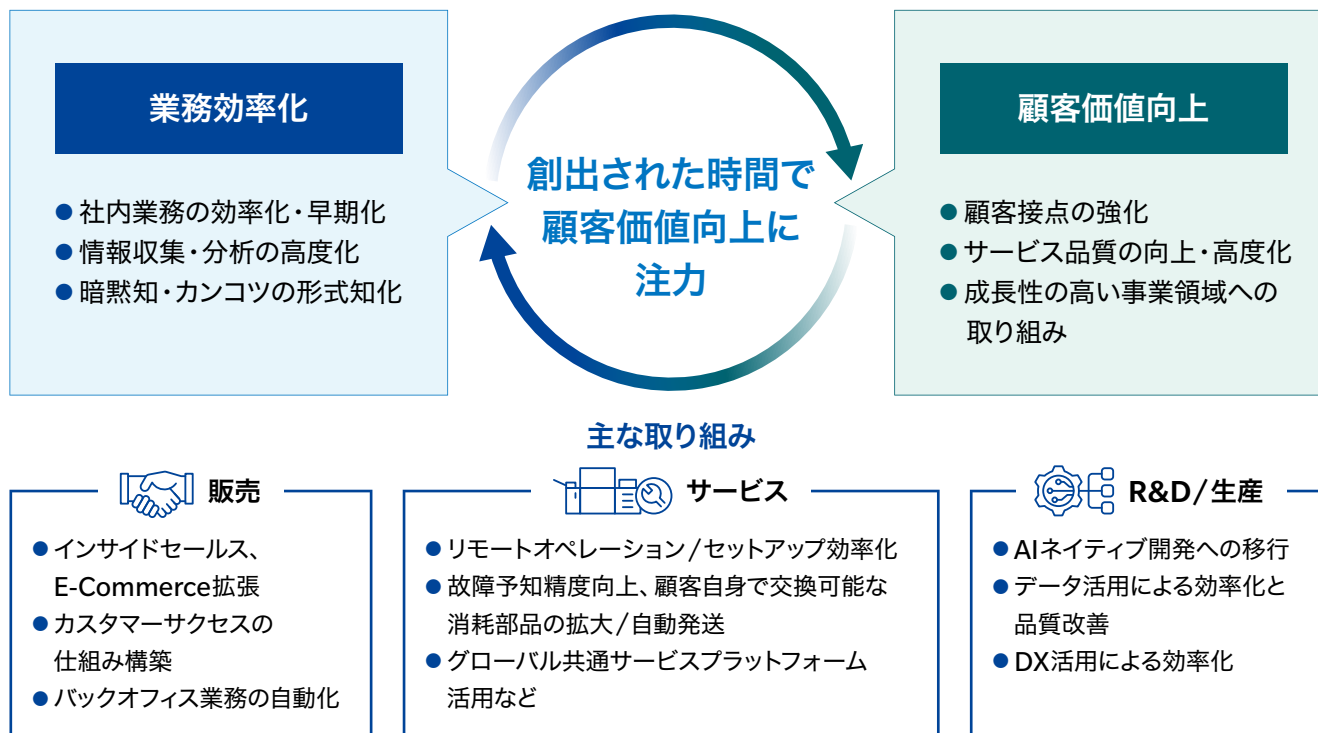
コニカミノルタは、中期経営計画 Corporate Plan 2026-2028 (以下、新中計)の達成を支える重要な取り組みとして、AIとデータを活用したDXを推進しています。販売、サービス、開発、生産、SCM、コーポレートなど幅広い領域で業務プロセスや意思決定の高度化を進めるとともに、製品・サービスへのデジタル技術の実装を通じて、競争力の強化と顧客価値の向上に取り組んでいます。AIとデータを事業活動全体で活用することで、事業変革と持続的な企業価値の向上を実現していきます。

コニカミノルタは、AI・データ活用を単なる業務効率化にとどま

らず、価値創出や将来の成長につながる取り組みとして位置づけています。従業員一人ひとりの生産性向上のため、AIを業務のパートナーとして活用しながら、人がより高付加価値な業務へ集中できる環境づくりを進めています。さらに、組織全体の競争力強化、お客様への新たな価値提供、将来の事業機会の創出までを視野に入れたDXを展開しています。

こうした取り組みを継続的な成果につなげるため、データ・AI基盤の整備、人材育成、ガバナンスの強化を進めるとともに、各部門で生まれた成果を全社で共有・活用できる仕組みを構築しています。個別最適にとどまらず、各事業で蓄積したデータやAIを再利用できる環境を整備することで、全社的なDXの推進基盤を強化しています。

DX戦略の考え方



AI活用による価値創出事例

コニカミノルタでは、AIを活用し、社内業務の変革と製品・サービスを通じた価値創出の両面で成果を創出しています。

社内では、外国特許出願業務を支援するAIを開発し、調査・分析・翻訳などの業務を高度化することで、先行例調査工数の最大95%削減を実現しました。さらに、AI活用を前提に出願ワークフローも見直し、知財業務全体の変革を進めています。

お客様向けには、AIを活用した教育プラットフォーム「tomoLinks」を提供しています。「答えを出さないAI」により児童生徒一人ひとりの思考力を育むとともに、学習データを活用して教員の指導を支援することで、教育現場に新たな価値を提供しています。

課題	● 弁理士不足 ● 翻訳コスト増大
取り組み・解決	● 知財業務全体を支援するAIの開発 ● 出願ワークフロー高度化
効果	社外連携 特許事務所・業界団体を巻き込んだ実績 最大95% 特許先行例調査の工数削減

DX推進における重点課題

DXを全社的な成果につなげるためには、データ、人財、ガバナンスを一体的に整備することが重要です。コニカミノルタでは、これらをDX推進における重点課題と位置づけ、取り組みを進めています。

データについては、事業や地域ごとに分散するデータやAIを全社で連携・活用できる基盤の整備を進めています。また、全従業員を対象としたAI教育や専門人財の育成に加え、各部門の取り組みを共有・横展開することで、AI・データ活用を根付かせる企業文化の醸成を図っています。

さらに、AIの適正利用や倫理、セキュリティ、法規制への対応を担うAIガバナンスと、データ品質や利用管理を担うデータガバナンスを整備しています。これらはAI・データ活用を制約するものではなく、安全性と価値創出を両立するための基盤です。

こうした取り組みを通じて、AI・データ活用を全社に定着させるための基盤構築を進めています。

詳細情報: AIの利活用

<https://www.konicaminolta.jp/about/csr/social/use-of-ai/index.html>

課題	● 教員の業務負荷 ● 児童一人ひとりへの適切な指導
取り組み・解決	● 児童生徒ごとに最適な学びと支援を提供する教育プラットフォームの開発
効果	全国の自治体・学校で活用 AIを活用した個別最適学習を支援 答えを出さないAI AI伴走で思考力・問題解決力を育成

DX推進の目指す姿

コニカミノルタが目指すのは、各部門で生まれた成果を全社で共有・活用できるDX基盤の構築です。事業や地域ごとに分散するデータやAIを共通基盤のもとで連携・活用し、各部門で得られた成果を迅速に横展開できる環境の整備を進めています。

さらに、データ、AI、アプリケーションを全社で再利用できる基盤を整備することで、個別最適にとどまらない全社最適のDXを実現します。また、人財育成や組織変革を通じて、AI・データを活用する企業文化の定着を進めます。AI・データ活用を一過性の取り組みではなく、継続的な価値創出を支える経営基盤へと進化させることで、新中計の達成と持続的な企業価値向上につなげていきます。

全社最適を実現するDX基盤

